

■ 成果指標

指標	単位	現状値		実績値				目標値
				R4	R5	R6	R7	
1	亀山市ボランティアセンターの登録者数	人	719	R2	592	550		870
2	成年後見制度の利用人数	人	2	R2	5	5		8
3	地域主体の支え合いのしくみを構築した地域まちづくり協議会の割合	%	13.6	R2	18.1	18.1		40.0
4	生活保護世帯で就労能力・意欲のある者が就労・増収となった世帯の割合	%	40.0	R2	33.0	0		50.0
5								
6								
7								
8								

■ 市民アンケート調査

項目	現状値 [R2]	1次 [R5]	2次 [R6]	市民アンケートの考察
1 ボランティア活動が活発に行われている	重要度	0.69	0.74	「ボランティア活動が活発に行われている」の設問については、重要度・満足度ともに全体の平均より低い。また、重要度について上昇している一方、満足度は低下しており、アンケート調査全体の傾向と同様の傾向がみられる。
	満足度	▲ 0.40	▲ 0.43	
2	重要度			
	満足度			
3	重要度			
	満足度			
4	重要度			
	満足度			

■ 施策推進 [施策の方向]

施策の方向	施策推進に関する考察
① 地域福祉を支える人と組織の育成	福祉委員等の地域における支援者の確保・育成を図っており、今後は、ボランティアの担い手の裾野を広げつつ、多様な地域福祉活動の場の創出を継続していく。
② 安心して福祉サービスを利用できる環境づくり	成年後見制度における支援体制を充実し利用の促進を図っており、今後は、亀山市社会福祉協議会との連携を更に強化し、重層的支援体制の確立を継続していく。
③ 地域での助け合い・支え合いの促進	民生委員、児童委員、福祉委員等、地域福祉の担い手との有機的な連携体制を整備しつつあり、「ちょこボラ」等地域の実情に応じた市民主体の活動支援を継続していく。
④ 生活困窮者の支援と自立の促進	被保護者への伴走的な支援や生活困窮者の自立に向けた支援体制の強化を図っており、今後は、子どもの貧困、ひきこもりなど相談支援の事業化を図る。
⑤	
⑥	
⑦	

総合評価

<p>地域福祉を支える人と組織の育成については、新型コロナの5類移行はあったものの、コロナ禍の影響もあり、ボランティアやサロン活動が停滞する中、関係団体の高齢化等による組織の縮小化や、定年年齢の引き上げ等による担い手不足が深刻化しており、その解消や抑止に至っていない。安心して福祉サービスを利用できる環境づくりについては、社会福祉協議会とのパートナーシップの下、重層的支援体制への基盤の整備・運用を進めることができた。なかでも、全庁的に展開しているつながるシートを活用した複合的な課題を抱える世帯情報を集約する仕組みと相談支援包括化推進員(市)とコミュニティソーシャルワーカー(社協)を中心とした支援体制も定着を図り、支援の強化につなげた。成年後見制度については、中核機関を設置・運営し、一元的な相談窓口を社会福祉協議会に確立するとともに、法連携ネットワーク協議会や法人後見の受任機関を確保し、受任調整会議などにより、制度利用が必要な人を社会全体で支え合う体制づくりを進めることができた。地域での助け合い・支えあいの促進については、地域まちづくり協議会連絡会議と共催で「ちょこボラ」をテーマとしたボランティア講座の開催や地域での話し合いの場に参加するなど、全まちづくり協議会に対し、継続的にちょこボラの実践を働きかけているが、4つの地域まちづくり協議会にとどまっている。生活困窮者の支援と自立の促進については、生活保護法上の被保護者への伴走的な支援をはじめ、生活困窮者自立支援事業により、その自立に向けた支援体制の強化が図れた。また、社会的課題となっている「ひきこもり・閉じこもり」については、民間事業所との連携による就労体験等の場づくりをはじめ、インターネットを活用した居場所づくりの調査・研究を進めるなど、社会との関わりや居場所づくりの検討を行った。</p>	<p>C</p> <p>あまり進まなかった</p>
---	----------------------------------

今後の展開方針

地域まちづくり活動や市民活動の活性化に向けた継続的な活動支援や担い手の育成を図れるよう、新たに地域予算制度において、ちょこボラへの運営費補助の加算による支援を進めるとともに、先進事例の紹介など、粘り強く地域に働きかけ、ちょこボラの全市展開を推進する。

引き続き、つながるシートを活用したしくみの浸透を図るとともに、市民に対する重層的支援体制の周知を図ることで、誰ひとり取り残さない支援につなげる。生活困窮者へのきめ細やかな支援を継続しつつ、青少年の引きこもりに関する福祉と教育の連携強化に向けた一元的な相談窓口の確立や新たな居場所づくりの試行的な取り組みを進め、社会参加への支援を進める。